【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和２年度学校評価 中間評価

様式1（小・中）

達成度（評価）
Ａ：十分達成できている
Ｂ：おおむね達成できている
Ｃ：やや不十分である
Ｄ：不十分である

学校名	太良町立多良小学校

1　前年度 評価結果の概要	○評価項目の各観点では、9観点でA、6観点でBであり、本年度の学校教育目標は概ね達成できたと言える。 ○学校評価アンケートでは、児童・教師ともに昨年度より学校目標に対する意識が高い結果となり、学校目標を意識した生活をしたり、教育活動にあたることができた。 ○道徳教育については、昨年度までの研究の積み重ねを受けて、研究主任を中心にして全員授業体制で授業実践を行うことができた。 ○今年度から導入された「志を高める教育」では、毎時間の授業において、めあての提示・振り返りの発表・ノートの取り方等を学校全体で統一して取り組んだ。今後もどの子にも分かりやすい授業の定着をめざしていく。 ○教育相談月間などの取り組みや気になる児童に関する情報交換を通して児童理解が進んだ。特別支援教育コーディネーターを中心に、日頃から養護教諭、心の相談員やSC、適応指導教室「おれんじ」の職員と連携して支援してきた。不登校児童やその傾向がある児童などまだたくさんの気になる児童がいるので今後も多くの職員の目で見守っていく。Q－Uテスト（2回実施）や心のアンケートを実施しているが、多くのクラスに要支援の児童がいる。よりよい学級集団づくりに関する研修が必要である。 ○特別活動の領域がAとなっているが、たてわり活動や集会活動等を充実させることで、主体的な活動がより促進されたと思われる。担当者による「学級活動」の具体的な提案によりすべてのクラスで学級活動の実践が推進されることが望まれる。 ○多くの体育的行事を計画的に実施することができたが、楽しみながら意欲を持って運動する児童を育てるためにスポーツチャレンジなども活用していく。
2　学校教育目標	「元気いっぱい　笑顔いっぱい　ともに学び合う　多良っ子の育成」を実現する。

3　本年度の重点目標	重点目標① 目指す子ども像の確かな実現	**かしこく**（＝ ともに学び合う） 課題を「自分事」としてとらえ、他者と関わりながらよりよく解決を図ろうとする子ども **やさしく**（＝ 笑顔いっぱい） 感性が豊かであり、多様な価値を認め、感謝と思いやりの心を体現する子ども **たくましく**（＝ 元気いっぱい） 心身の健康を心がけ、元気で生き生きと活動し、粘り強く取り組む子ども	→主に「学力の向上」 →主に「心の教育」 →主に「健康・体つくり」	重点目標②　特別支援教育の充実 重点目標③　特別活動の充実 重点目標④　地域・保護者に開かれた学校づくり 重点目標⑤　働きやすい職場環境づくり

4　重点取組内容・成果指標　　**中間評価**　　**5　最終評価**

（1）共通評価項目

評価項目	重点取組：取組内容	重点取組：成果指標（数値目標）	具体的取組	中間評価：進捗度（評価）	中間評価：進捗状況と見通し	最終評価：達成度（評価）	最終評価：実施結果	学校関係者評価：評価	学校関係者評価：意見や提言	主な担当者
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教職員の割合が80%以上。	・学力向上対策シートの共通実践を校内研究の取組と関わらせることで、マイプランの取組を促進し、成果指標の達成を目指す。	B	・マイプランの取組で、成果指標を6～7割の職員が達成できている。 ・今後も校内研究と関わらせ、マイプランの取組を促進し、質的向上を目指す。		・		・	山崎
	○多良小学校教育の質的改善	○教職員アンケートで「ペアで取り組む授業研究は自らの指導力向上に役に立ったか」について肯定的に回答した教職員の割合が80%以上。	・「授業づくりのステップ1・2・3」やチェックリスト、教育センターの「小学校算数科の授業の質的改善」コンテンツを活用して、全教職員が年間4回程度のペアで取り組む授業研究を行う。	A	・約8割の職員が「授業づくりの1・2・3」を意識して、日々の授業を行っており、90%以上の職員がペアで取り組む授業研究を肯定的に捉えている。 ・コンテンツ等を紹介しながら、さらに日々の授業力が向上するように推進していく。		・		・	鹿嶋
	○児童の読書の質・量の向上とコミュニケーション力の育成	○児童アンケートで「読書をすることは楽しいか」について肯定的に回答した児童の割合が70%以上。 ○児童アンケートで「外国語の授業で話したり聞いたりする力がついたと思うか」について肯定的に回答した児童が70%以上。	・児童の読書の質と量を向上させるための朝読書の取組を見直す。 ・魅力的な図書室づくりを通して、児童の読書への意欲を高める。 ・外国語活動、外国語科の授業を通して、児童のコミュニケーション力を育成する。	B	・児童アンケートの結果はいずれも約80%が肯定的に回答している。 ・朝読書は定着してきているが、読む本の約束は再確認が必要である。 ・読書量が少ない児童には、図書館のイベントなどを通して、今後も意欲喚起をしていきたい。 ・外国語の授業では、「話す・聞く」活動を中心に、コミュニケーション力を育成することができている。		・		・	井上、林 江口、（楠田）
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○児童アンケートで「人権集会で人権について深く考えることができたか」について肯定的に回答した児童の割合が80%以上。 ○教職員アンケートで「年間を通して豊かな心を育む道徳の授業を実施できたか」について肯定的な回答をした児童の割合が90%以上。	・人権意識を高める人権集会等の取組の充実を図る。 ・前年度までの研究成果を生かして、豊かな心を育む道徳の授業を毎週確実に実施する。	B	・児童アンケートの結果は約80%、教職員アンケートの結果は75%が肯定的な回答である。 ・全校児童の声を人権集会に反映させるため、「友だちをつくるためにどうしたらいいか」「あなたがいじめを見かけたらどうしますか」と全校児童に尋ねて、人権の話につなげていった。 ・人権意識を高めるために、人権集会の在り方について、代表委員会の議題に取り上げた。 ・昨年度までの研究成果を生かして、豊かな心を育てる道徳の授業を毎週確実に実践している。		・		・	森山 井上
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○教職員アンケートで「いじめ防止等（いじめの定義、いじめの防止等のための取組、事案対処等）について組織的対応ができているかについて肯定的に回答した教職員70%以上。	・いじめ早期発見・早期解決のためのマニュアルを点検し、毎週連絡会で実態把握を行う。 ・いじめの対応についての実効性のある研修を年間に2回以上行うとともに、気になる児童についての共通理解をこまやかに行う。 ・いじめの早期発見につながるように、毎月実施する「心のアンケート」の内容を改善する。	B	・教職員アンケートの結果は90%以上が肯定的回答である。 ・マニュアルを点検し、いじめ事案やいじめにつながる事象などを毎週連絡会で把握している。 ・職員研修では「いじめの基本的な考え方」を共通理解し、動画教材を紹介した。3学期にいじめ防止についての研修会を予定している。 ・心のアンケートの内容を一部変更し、いじめの早期発見につながるよう状況を把握できるようにした。		・		・	小野原、溝口
	◎児童生徒が夢や目標をもち、その実現に向けて自ら考えて取り組もうとするための教育活動	◎児童アンケートで「将来の夢や目標をもっている」について肯定的な回答をした児童の割合が70%以上。 ◎児童アンケートで「自ら考えて自学ノートに取り組むことができているか」について肯定的に回答した児童の割合が80%以上。	・学級活動において、将来の夢や目標について考え、そのための行動を促すような機会を設ける。 ・児童が自ら考えて取り組む自学ノートの取組を行う。 ・学校行事や日々の生活場面で児童自身が考え判断できるような場を多く設ける。	A	・児童アンケートの結果はいずれも80%の児童が肯定的に回答している。 ・「自学ノートの約束」の配布と自学コーナーの設置したことで、アンケートでは、約80%の児童が自分で考えて自学ノートに取り組めていた。何をしたらいいのか分からない児童に対して、自学の見本となるプリントを作成し、配布していきたい。		・		・	大石 貞方
●健康・体つくり	○望ましい生活習慣や食習慣の育成と安全に関する意識の向上	○児童アンケートで「校内で落ち着いた生活を送ることができているか」「登校班で協力して、安全に登校することができているか」「無言掃除に取り組むことができているか」「時間を意識してみんなで協力し、楽しく給食をとっているか」について肯定的に回答した児童の割合が80%以上。 ○残食が前年を下回る。	・校内での落ち着いた生活や登校班での安全な登校を促すための取組を行う。 ・児童が自覚して無言掃除に取り組むことができるような取組を行う。 ・給食におけるスムーズな準備・後片付けと食べる時間の確保、残食0を目指した取組を行う。	A	・児童アンケートの結果はいずれも80%を上回る児童が肯定的な回答をしている。 ・給食の時間に、毎日全教室校を回って、声をかけている。準備や片付けも以前より時間が短縮されている。時間に間に合わなかった児童は、1か所に集め、一緒に食べ、最後の児童と一緒に片づけている。運搬車が来る前に、全員が食べてしまうようになっている。意識化が進み、残食は前年を下回り、ほぼ毎日0になっている。 ・登校班チェックシートを活用し、毎月の登校状況を確認できている。また、長期休み前後は地区児童会を開き、休み中の交通マナーや過ごし方を確認している。		・		・	小野原 中村 武冨 南川、太田
	○児童の心身の成長を促す運動会の実施	○児童アンケートで「運動会を通して、心身の成長を感じることができたか」について肯定的に回答した児童の割合が80%以上。 ○運動会の練習期間及び当日の体調不良者数が前年度を下回る。	・運動会における異学年交流を意図したレクレーション走の実施。 ・児童の健康に配慮して運動会に向けての取組や運動会当日のプログラムを見直す。	A	・コロナウイルス対策のため、運動会の開催時期を5月から10月に変更した。競技も午前中としたため、練習期間含め当日も熱中症等による体調不良者は前年度を下回った。 ・異学年交流によるレクレーション走の実施を行った。その結果、競技説明や練習が効率よく行えた。		・		・	田中、川浪
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・定時退勤日の設定と徹底を図る。 ・校務サーバーの教材フォルダに全学年の教材を集約・整理し、共有データの活用を図る。 ・校内研究の進め方を見直し、研究のまとめの簡素化を図る。 ・5Sを徹底し、効率的に働くことができる職場環境をつくる。	B	・今年度、時間外在校時間の上限を7時までと設定し、90%以上が意識して取り組むことができている。 ・定時退勤日については、水曜日に設定しているが達成率が低い現状にある。 ・校内研究は、各学年グループやペアを単位として取り組むため全体会が減り、教員の自主的な授業改善の意識が出てきている。		・		・	校長 教頭 山田 眞﨑
	○職場における危機管理意識の向上	○教職員アンケートで「校務の内外を問わず、危機管理意識をもって行動しているか」について肯定的に回答した教職員の割合が100%。 ○年間を通して、教職員による交通加害事故などの信用失墜行為0。	・毎月末に「ゼロの日」を設定し、自らの職務を見直し、危機管理意識を向上を図る。 ・危機管理ファイルを活用して、日常的に危機管理に対する意識化を図る。 ・より実効性が高い服務研修を実施する。	A	・教職員アンケートは100%であったが、8月に軽微な加害事故が発生。 ・「ゼロの日」で、自分の自動車運転や職務の振り返りを行うことで、交通事故や指導の在り方等、教職員としての危機管理意識が高まっている。 ・教職員に係る事例等、迅速に伝達配布し、危機管理ファイルに保存させているので高い倫理観を維持している。		・		・	校長 教頭

（2）本年度重点的に取り組む独自評価項目

評価項目	重点取組：重点取組内容	重点取組：成果指標（数値目標）	具体的取組	中間評価：進捗度（評価）	中間評価：進捗状況と見通し	最終評価：達成度（評価）	最終評価：実施結果	学校関係者評価：評価	学校関係者評価：意見や提言	主な担当者
○特別支援教育の充実	○教員の特別支援教育に対する専門性と意識の向上	○教職員アンケートにおいて、「特別支援教育に関する専門性が向上したか」「特別支援的な配慮を心掛けているか」について肯定的に回答した教職員の割合が50%以上。	・特別支援教育に関する研修会を2回実施し、若手教員が通常学級での対応に役立つ内容と気になる児童を取り上げての事例研究に取り組む。 ・ケース会議を開催し、関係教職員での情報共有を密にする。	B	・教職員アンケートにおいて肯定的な回答をした職員の割合は77%、92%である。 ・夏季休業中に、特別支援教育に関する研修会を実施した。声のかけ方等の具体的な支援についてはで参考になった。 ・来年度、入級予定の児童の支援会議を保護者、適応教室、学校が参加し、表を作り上げ、確認しながら支援にあたっている。		・		・	太田
	○特別支援学級を中心とした特別支援教育の充実	○担当する教員の見取りで、対象児童の集中できている時間の伸びが見られる。 ○担当する教員の見取りで、学級の中で授業に集中できる児童が増える。	・1年生を中心に、発達障害もしくはその傾向が認められる児童の学習に対する集中力を高め、学習効果を高める取組を行う。	B	・今年度入学の特別支援学級児は、文字、暗算での計算ができるようになるなど学力が定着し、安定している。 ・発達障害児については、取り出しをしたり、放課後の宿題支援をしたりして、支援をしているところである。		・		・	太田、武冨 坂口、松尾、野中
○特別活動の充実	○各学級における学級活動（話し合い活動→実践・体験活動）の充実	○学級活動において、学級独自の学級会（話し合い活動）を年間6回以上行う。 ○児童アンケートで「学級会に進んで参加したか」について肯定的に回答した児童の割合が80%以上。	・学校全体で、学級会の進め方、学級会グッズ等を活用して、会の流れを統一し、共通実践と常時、学年グループ間での情報交換を行う。	B	・児童アンケートの結果は78%で成果指標にはわずかに及ばない。 ・学級会の流れ及び、使用するグッズの統一ができ、学級会や代表委員会までの進行がスムーズに行われるようになった。 ・全学級で、学級会の結果を教室に掲示することに至っていない。今後、児童がいつでも見られるように、結果を掲示するよう、呼びかけを行う。		・		・	横山、樋口
	○児童会の委員会活動の活性化	○児童の年間振り返りカードの自己評価で「よくできた」（◎）と評価した児童の割合が80%以上。	・振り返りカードを用いて、振り返り活動（自己評価）を充実させる。 ・メッセージボードを設置し、取組に対する他の児童からの正のフィードバックを可視化できるようにする。	B	・振り返りカードによる自己評価はどの委員会もできている。教師からのコメント等の取組には温度差があり、呼びかける等、取組の充実を図っていく。 ・メッセージボードの設置はできているが児童からのメッセージが増えていない。活動のアピールの強化と記入の呼びかけを行っていく。		・		・	大石
○地域・保護者に開かれた学校づくり	○学校のよさや取組の発信	○週に2回以上の学校ホームページのお知らせ、イベントギャラリーの更新 ○年間を通して、50号以上の学校便りを発行する。	・学校ホームページを通して、適時に学校の情報を発信する。 ・学校便りを発行し、学校の取組、児童の頑張りなどを家庭・保護者に伝える。	A	・イベントギャラリーの更新回数154回（週平均5.5回）、学校便りは30号を発行している。（11月20日現在）学校の教育活動を家庭・保護者に発信することができている。今後は、学校HPの認知度をもっと上げるようにする。		・		・	校長

●・・・県共通　○・・・学校独自　◎・・・志を高める教育

5　総合評価・ 次年度への展望	・ ・ ・